

劇あそびと日常保育と

小溝きつ

最近幼稚園に於いても夫々大なり小なりの学芸会が催されることが多くなっています。

例えば入園式、端午の節句を始めとして、七夕等を経てXマスお雛祭から卒業式を最後として機会ある毎にこの種の催しが行われます。この学芸会のあり方については各地域、各幼稚園によって夫々異なり、いろいろの特色がみられると思います。又、歴史的にみても幼稚園誕生当時から現在までには幾多の世相の移り変りにつれて相当の変遷があつたのではないかと思われます。明治から大正、昭和と順を追つて調べてみたら、その足跡が分り興味ある事と思いますが、それには相当の時間を費やすねばならぬので割愛する事として先ず現在に於いてどの様なものがどの様に実施されているかを探索してみる事にしま

す。一般的にどの様なものが取材として選ばれるかというと遊戯、唱歌、合奏、お話し、紙芝居、人形芝居、劇等でしょう。いずれも

子供達の表現活動で、この一つ二つが単独に切離されて、この中の一つだけが主になつたり、数種類がいろいろに組合わされて学芸会のプログラムが決められると思います。この様にして幾種類かのプログラムが出来ていくのですが、題材のとり上げ方やその展開に二通りの方針が行われていると思います。

一つは日常の保育や子供の生活とは全く遊離した学芸会が用意されるのと、も一つは今迄の保育の延長としてまた保育の総綱めともう形で催されるものとの二つがあると思いま

る事は遊戯ばかりの学芸会が多いとゆう事です。その遊戯も子供自身の表現ではなく振附け遊戯の様な技巧のこつたものを而も衣装をこらせて舞台に立たせたり、父兄達はそれを競争して、お互に自己満足するとゆう全く教育的意企からは、かけ離れた舞踊のおさらい会を思わせる様な、つまり子供より大人の癡笑に重みの掛かつた学芸会を見受けます。之はおそらく先生の特技や興味又は園児の地城的環境からくる自然の勢いだとと思うのです。

先生に踊りの偏向があり、それに趣好が傾むいた場合は必ず其の方にウエイトがおかれてすぎて日常保育の中にもそれらの振付け遊びが次々と注ぎこまれていくのではないでしょか。

更に下町の幼稚園であつた場合は舞踊を習わせる家庭も多い事でしょうから、それにおされて、つい学芸会が舞踊の発表会の様なものになって了うものと思われます。唱歌にしても然り、今述べた事柄に左右されて唱歌ばかりの学芸会になつて了うもあり得るでし

前者の場合、今でもあちこちに残存しています。

其他に单一ではなく数種類を盛り沢山、单

にして、並列して発表されるものがあります。この様なものをみると保育者側に何の意企があつて子供達に発表させているのか分らなくなつて所謂学芸会の為の学芸会という印象を与えます。之等のプログラムの中から劇を一例取り上げてみると、ある脚本とか、

又は講習によつて習得した事を其のまま子供達にうのみに発表させている事です。之らの創案は大体、見識のある人達によつて作成されたものですから一応まとまつていて危なげなく、見ていてもきれいではありますが一向に学芸会としての効果は挙らないのです。之は外部から与えられたものの單なる吐き出しだで各自の持つてゐるものとの逆りではないからでしょう。

劇そのものには歌あり、踊りあり、言葉あり、製作ありで子供達の生活経験を凡て総合したもので、然もその一つ一つが有機的な連闊をもつところに非常に意義があるのですが、子供の劇にしても余りこつたものはどうも子供自身のためよりもむしろ大人の方の欲求満足の様に思えます。

子供の自主性を無視したやり方、対話の仕方も只朗説的なもの、歌にしても継ぎはぎ

的なものや全体が不調和なもの等々、劇に子供達が溶け込んでいない上づらだけの劇を見事もあります。

ではどの様な方向にもつていくのが良いのでしょうか。

私は日常の保育における子供の遊びをも少し見詰める事ではないかと思います。その中

に劇の題材が転がつてゐる事を見出します。おままでの中にも砂遊びにも、けんかにも、こひこ遊び、すべてが劇にならなゝものはありません。保育者側の保育目標に到達させるための方法として劇にもつていく事もできれば、子供の生活経験そのままを再現させ

る事も出来ます。従つて其処に脚本を其の儘、う呑みにする必要は毛頭ありません。劇の題材は子供の生活の中から選ぶか、それとも保育者側の希いを題材とするかは其時の自由として、前者ではその遊びに於ける各児の行動、言葉を觀察して記録し、それが舞台で演じられる様に徐々に移行していく。生、死、のままでは劇を構成しないので、言葉、行動に肉附けをします。その場合も子供の考

を主としてとり入れ大人は手をかす程度にしてまとめる様に仕向けています。

一方では、いろいろの道具、衣装が必要になります。そこで子供達がめいめい得意とする技能や能力を充分に發揮する様に絵をかかせたり、紙細工をして諸道具を整えていきます。何か一つ出来上る毎に

その製作品を使って子供達に自由表現させ、その過程中に各児の能力と興味を見究めておいて最後のまとめに入る時に役割をふり当てます。最初から役割を決めて固定してしまう、大人の演劇でとられる様な方法はとりません。その結果として面白い事には数年前、みつばちの冒險をした時、普通の子供達は熊蜂の様な所謂悪者にはなりたがらないもので

すが、この時は一人もすねたり拒む事もなく各自いさんでその役を務めたという体験をもつております。この事は心理学的解釈もあると思いますがそれは専門家に譲ることにし、最初から頭でなしに役を振立てられないで誰でも一応はやってみる中に彼等に種々の自覚が出来て来て、自分の得意とする動作も子供自身認識する事で、から大人の側にその觀察が誤まらない限りに於いては不服を申立

てなくなるのではないかと私は考えております。金児に体験させる以上、金児に参加させます。この子は下手だからと除外する事はありません。能力はなくとも劇の場合は何等かの形で役にはめこむ事ができるものです。幼児の劇を音楽とは密接な関係があつて、之をとつてしまふと幼児の行動は円滑性を欠き、ぎこちないものになってしまいます。そこでその場面々々に最も適當な感情を盛りたてる音楽が用意されなければなりません。保育者に作曲能力があれば理想的ですがそれを求めるのは無理な場合もありますから良い音楽を沢山知っている事は大切だと思います。この様な方法で学芸会を迎えると非常に気持が楽で、子供達が台詞や踊りをまちがえないかとか、しぐさの出来栄えがどうかといった不安は少しも抱かずにその時の雰囲気で子供がどの様に演じるかと全く楽しみであり、大人も子供も和氣あいあいの中に劇を終了する事が出来ます。

之は精神薄弱児の幼稚園の例ですが私はこの一学期に実施した人形劇について次の様なことを経験しました。本年三月から新築中で、あった園舎が学期末に落成するので、その祝

に子供達の学芸会をする事になりました。そして新築の悦びを子供達に表現させた劇を選んでいました。この建築は船型をしているので真実の船を見学に横浜行を決行しました。子供達は色とりどりの外国船に歓声をあげ、船の窓から顔を出している外人達にハロハロとよびかけたり、かけられたりして騒ぎ、遊覧船に乗って港内一周する等その一日中大喜びでした。私としてはこの経験と舟の建物とを結びつける考えで各自が拵えた指人形を持って自由に話合をさせようと試みました所、数日前の経験は少しも表現されませんでした。保育者がヒントを与えて過去の経験はすっかり消え去ってしまった。そこで横浜の経験に執着するのは止めて、この珍しい建物を彼等がどの様に使用してどの様に喜ぶかを見る事にしました。縄張りがとかれると彼等は先ず建物の外側に設けられた階段を上りそこから戻り台を伝つてツルツルと滑り始めました、余り集団的行動をとらない彼等もそれを見て二人三人とぐんぐん増して来て大騒わいとなり上から下るもの下から上に登るものと衝突して、けんか、泣くの騒ぎとなりました。この場面を一つの山として捉える

に子供達の学芸会をする事になりました。そして新築の悦びを子供達に表現させた劇を選んでいました。この建築は船型をしているので真実の船を見学に横浜行を決行しました。子供達は色とりどりの外国船に歓声をあげ、船の窓から顔を出している外人達にハロハロとよびかけたり、かけられたりして騒ぎ、遊覧船に乗って港内一周する等その一日中大喜びでした。私としてはこの経験と舟の建物とを結びつける考え方で各自が拵えた指人形を持って自由に話合をさせようと試みました所、数日前の経験は少しも表現されませんでした。保育者がヒントを与えて過去の経験はすっかり消え去ってしまった。そこで横浜の経験に執着するのは止めて、この珍しい建物を彼等がどの様に使用してどの様に喜ぶかを見る事にしました。縄張りがとかれると彼等は先ず建物の外側に設けられた階段を上りそこから戻り台を伝つてツルツルと滑り始めました、余り集団的行動をとらない彼等もそれを見て二人三人とぐんぐん増して来て大騒わいとなり上から下のもの下から上に登るものと衝突して、けんか、泣くの騒ぎとなりました。この場面を一つの山として捉える

に子供達の学芸会をする事になりました。そし て新築の悦びを子供達に表現させた劇を選んでいました。この建築は船型をしているので真実の船を見学に横浜行を決行しました。子供達は色とりどりの外国船に歓声をあげ、船の窓から顔を出している外人達にハロハロとよびかけたり、かけられたりして騒ぎ、遊覧船に乗って港内一周する等その一日中大喜びでした。私としてはこの経験と舟の建物とを結びつける考え方で各自が拵えた指人形を持って自由に話合をさせようと試みました所、数日前の経験は少しも表現されませんでした。保育者がヒントを与えて過去の経験はすっかり消え去ってしまった。そこで横浜の経験に執着するのは止めて、この珍しい建物を彼等がどの様に使用してどの様に喜ぶかを見る事にしました。縄張りがとかれると彼等は先ず建物の外側に設けられた階段を上りそこから戻り台を伝つてツルツルと滑り始めました、余り集団的行動をとらない彼等もそれを見て二人三人とぐんぐん増して来て大騒わいとなり上から下のもの下から上に登るものと衝突して、けんか、泣くの騒ぎとなりました。この場面を一つの山として捉える

に子供達の学芸会をする事になりました。そし て新築の悦びを子供達に表現させた劇を選んでいました。この建築は船型をしているので真実の船を見学に横浜行を決行しました。子供達は色とりどりの外国船に歓声をあげ、船の窓から顔を出している外人達にハロハロとよびかけたり、かけられたりして騒ぎ、遊覧船に乗って港内一周する等その一日中大喜びでした。私としてはこの経験と舟の建物とを結びつける考え方で各自が拵えた指人形を持って自由に話合をさせようと試みました所、数日前の経験は少しも表現されませんでした。保育者がヒントを与えて過去の経験はすっかり消え去ってしまった。そこで横浜の経験に執着するのは止めて、この珍しい建物を彼等がどの様に使用してどの様に喜ぶかを見る事にしました。縄張りがとかれると彼等は先ず建物の外側に設けられた階段を上りそこから戻り台を伝つてツルツルと滑り始めました、余り集団的行動をとらない彼等もそれを見て二人三人とぐんぐん増して来て大騒わいとなり上から下のもの下から上に登るものと衝突して、けんか、泣くの騒ぎとなりました。この場面を一つの山として捉える

動物達 「ああ、お腹が空いた。お弁当にいたしましょう」
皆その辺に腰を下ろし、「お弁当」の曲で
お弁当を食べたり水筒の水を飲んだりす
る。

そこへお花になつた子供が一人ずつ曲に合
せて出て来て曲の終った所で花を咲かせ
る。

花が全部咲くと、花のゆらぐよくな曲で、
ゆれたりまわったり自由に表現する。

蝶々が出て来てあたりをとび廻るたり花の
蜜を吸つたりする。(「蝶々の曲」)

・小鳥が出て来て飛んだりお話ししたりする。
(「かわいい小鳥」の曲)

動物達「お花さん一緒に遊ばない?」

花「ええ、遊びましょう」

動物達「蝶々さん一緒にあそばない?」

蝶「ええ、遊びましょう」

動物達「小鳥さんも一緒にあそばない?」

小鳥「ええ、遊びましょう」

・皆で仲よく遊ぶ。二、三人ずつ組んで、「のぞきっこ」「お友達」の曲で遊ぶ。

動物達「もう遅くなつたから帰るわ。さよ
うなら」

花・蝶・小鳥 「さようなら、さよならなら」「
(動物達、手をふりふり帰つていく。「夕
やけ」の曲)

花・蝶・小鳥 「私達も帰りましよう」
(蛙が鳴くからかえろを歌い乍ら帰つてい
く。次第に遠くへ行つた様に歌声小さく)

36頁より続く 彼等に無理のない役割を与え
れば、自信も出て来て明朗な積極性のある子
供へと方向づける事も可能となります。又、
踊りにと順次熱意を示す様になると協力が芽
生えて成長していきます。その中に先生と子
供達の間にも親近感が増して、何ともいえぬ
和やかさが醸し出されます。

之を更に、おし進めて学芸会の運営を子供

達にやらせる様に仕向けています。挨拶、接待等
の役員も出す事によつて独立心を育てる事も
大切でしょうし、又、会の後では子供達に色々
の反省と自己評価をさせ、今後のあり方に
ついての話合も必要だと思ひます。但しこの
事は子供の精神発達に応じてやるべきで、入園
園の頃から求めるのは無理でしょう。入園当
初から卒業迄 各段階に分けて夫々に適応し
た水準が設定されなければなりません。

学芸会が夫々の目標によつて実施された後
は、その目標に達成したか否かの全体評価と
個人評価がなされなければなりますまい。こ
の事によつて、次の学芸会は如何にすべきか
を自ずと知ることができます。